資治通鑑 第 154 巻

令和 5 年 1 月 2 日

【梁紀十】　上章閹茂，一年。

■梁、●北魏、続国訳漢文大成 経子史部 第 9 巻 094p

高祖武皇帝+中大通二年（庚戌，５３０年）

●春，正月，己丑（25-13+1=１３日），魏の益州刺史の**長孫壽**、梁州刺史の**元俊**等は將を遣わして**嚴始欣**を擊ち，之を斬り，**蕭玩**（前巻前年に嚴始欣を助けると）等も亦た敗死し，失亡は萬餘人。

●辛亥（47-13+1=３５日?），魏の東徐州（魏の孝昌元年に下邳に置く）城民の**呂文欣**等は刺史の**元大賓**を殺し，城に據りて反し，魏は都官尚書の平城の**樊子鵠**等を遣わして之を討たしむ。二月，甲寅（50-43+1=８日），**文欣**を斬る。

【爾朱天光は万俟丑奴を討伐】

●［賀拔岳は爾朱天光の副官になる］**万俟丑奴**（ぼくきしゅうど）は關中を侵擾し，魏の**爾朱榮**は武衛將軍の**賀拔岳**を遣わして之を討たしむ。**岳**は私に其の兄の**勝**に謂って曰く、

「**丑奴**は，勍敵（強敵）也。今之を攻めて勝たざれば，固より罪有り。之に勝てば，讒嫉は將に生ぜん。」

勝は曰く、

「然らば則ち奈何や？」

岳は曰く、

「願わくは**爾朱氏**の一人を得て帥と為し而して之を佐くべし。」

勝は之が為に（9-095p）**榮**に言い，**榮**は悅び，**爾朱天光**を以て使持節、都督二雍（後魏の雍州は長安に治し、北雍州は華原県に治し、東雍州は鄭県に治す）、二岐（岐州は扶風雍県に治し、南岐州は河池故道県に治す）諸軍事、驃騎大將軍、雍州刺史と為し，**岳**を以て左大都督と為し，又た征西將軍の代の郡の**侯莫陳悅**（その先祖は魏の別部、庫斛眞水に居り、世々渠帥となり、遂に以て侯莫陳氏と為す。その後代郡武川に鎮す）を以て右大都督と為し，並せて**天光**之副と為し以て之を討たしむ。

●［天光は罰せられる］**天光**の初めて行くや，唯だ軍士千人を配し，洛陽以西の路次の民馬を發して以て之に給す。時に赤水（鄭県の北にあり、即ち山海經のいわゆる灌水、北して渭水に注ぐ、開封道鄭県より）の蜀賊（元蜀人の關中に遷る物、風に乘じて相い集りて賊を為す）は路を斷ち，侍中の**楊侃**に詔して先行して慰諭し（華陰の諸楊氏は魏に仕え奕世貴顯にして関西の重きを帰する所なり、故に先行させる），並せて其の馬を稅せしめ，蜀（続は賊）は疑いを持ちて下らず。軍は潼關に至り，**天光**は敢えて進まず，**岳**は曰く、

「蜀賊は鼠竊にして，公は尚ほ遲疑す，若し大敵に遇えば，將に何を以て戰わん！」

天光は曰く、

「今日之事は，一に以て相い委ねる。」

岳は遂に進み蜀を渭北に擊ち，之を破り，馬二千匹を獲る。其の壯健を簡びて以て軍士に充て，又た民馬を稅（徵発）し萬餘匹を合わす。軍士は尚ほ少なきを以て，淹留して未だ進まず。**榮**は怒り，騎兵參軍の**劉貴**を遣わし驛に乘りて軍中に至り**天光**を責め，之を杖つこと一百，軍士二千人を以て之に益す。

●［賀拔岳らは尉遲菩薩を破る］三月，**丑奴**は自ら其の衆を將いて岐州を圍み，其の大行台の**尉遲菩薩**、

僕射の**万俟仵**を遣わして武功より南に渭を渡り，攻圍して柵に趣かしむ。**天光**は**賀拔岳**をして千騎を將して之を救わ使む。**菩薩**等は已に柵を抜き而して還り，**岳**は故に其の吏民を殺掠して以て之に挑み，**菩薩**は歩騎二萬を帥いて渭北に至る。**岳**は輕騎數十を以て渭南より**菩薩**と水を隔て而して語り，國威を稱揚し，**菩薩**は省事（両敵相い向かう時にこれをして往来して言語を通傳せしむ、名乗り相いのようなもの）をして語を傳え令め，**岳**は怒りて曰く、

「我は**菩薩**と語る，卿は何人也！」

射ちて之を殺す。明くる日，復た百餘騎を引いて水を隔てて賊と語り，稍く引き而して東し，水淺く渉る可きの之處に至り，**岳**は即ち馬を馳せて東に出でる。賊は以て走ると為し，乃ち歩兵を棄て，輕騎にして南に渭を渡り**岳**を追う。**岳**は横岡に依り伏兵を設けて以て之を待ち，賊は半ば岡東に渡り，**岳**は兵を還して（伏兵も発して）之を撃ち，賊は敗走す。**岳**は下令し，

「賊の馬を下る者は殺す勿かれ」

賊は悉く馬を投げ，俄に三千人を獲て，馬も亦た遺(のこ)す無く，遂に**菩薩**を擒とす。仍って渭北に渡り，歩卒萬餘を降し，並せて其の輜重を収める。**丑奴**は之を聞き，岐州を棄て，北に安定に走り，柵を平亭（涇川の北、甘粛省涇原道涇川県、現・平涼市涇川県）に置く。**天光**は方に雍（州）より岐（州）に至り，**岳**と合す。

●<u>［爾朱天光は万俟丑奴・蕭寶寅を獲る］</u>夏，四月，**天光**は汧（水、陝西省關中道隴県の西北汧山の南仂り出て東南流して渭水に注ぐ）、渭（水）之間に至り，軍を停めて馬を牧し，宣言す、

「天の時は將に熱さんとし，未だ師を行(や)る可からず，秋涼を俟ちて更に進止を圖らん。」

丑奴の覘候者を獲，縦ちて之を遣る。**丑奴**は之を信じ，**(9-096p)**衆を散じて細川（甘粛省涇原道靈臺県、現・平涼市靈台県）に耕さしめ，其の太尉の**侯伏侯**（三字姓）**元進**をして兵五千を將して，險に據りて柵を立て使め，其の餘の千人已下にして柵を為る者は甚だ衆し。**天光**は其の勢いの分けるを知り，晡時に，密に諸軍を嚴し，相い繼ぎて俱に發す。黎明に，**元進**を大柵に圍み，之を抜く。得る所の俘囚は，一に皆な縦ち遣り，諸柵は之を聞きて皆な降る。**天光**は晝夜徑ちに進み，安定の城下に抵り，賊の涇州刺史の**侯幾**（複姓）**長貴**は城を以て降る。**丑奴**は平亭を棄てて走り，高平（九城志に鎮戎軍は古の高平の治なりと、甘粛省涇原道固原県、現・固原市原州区）に趣かんと欲す，**天光**は**賀拔岳**を遣わして輕騎にして之を追い，丁卯（3+60-42+1=２２日），平涼に及ぶ。賊は未だ列を成さず，直閣の代郡の**侯莫陳崇**は單騎にして賊中に入り，馬上に於いて**丑奴**（元は固琛の将なり、普通六年に魏の崔延伯を破り登場）を生きて擒として，因りて大呼し，衆は皆な披靡し，敢えて當る者無し，後騎は益々集まり，賊衆は崩潰す，遂に大いに之を破る。**天光**は進みて高平に逼り，城中は**蕭寶寅**（元は齊の王族、大通元年に魏に背き、二年に破れて丑奴に奔る）を執送し以て降る。

●壬申（8+60-42+1=２７日），吐谷渾王の**佛輔**を以て西秦、河二州刺史と為す。

●<u>［賊臣を剪らざれば，法は安くに］</u>甲戌（10+60-42+1=２９日），魏は關中の平らぐを聞き，大赦す。**万俟丑奴**、**蕭寶寅**は洛陽に至り，閶闔門外の都街之中に置き，士女は聚まり觀ること凡そ三日。丹楊王の**蕭贊**（叔父たるを以て助命）は表して**寶寅**之命を請い，吏部尚書の**李神俊**、黄門侍郎の**高道穆**は素より**寶寅**と善く，之を左右（佐佑、助ける事）せんと欲し，**魏主**に言って曰く、

「**寶寅**が叛逆するは，事は前朝に在り。」

會々應詔（猶ほ灌の侍詔の如し）の**王道習**は外より至り，**帝**は**道習**に外に在りて聞く所を問い，對えて曰く、

「唯だ**李**尚書、**高**黄門の**蕭寶寅**と周款（周は至るなり密なり、款は愛なり親密なり）し，並びに言うを得る之地に居る，必ず能く之を全くせんというを聞く。且つ二人は謂うに**寶寅**は叛逆するは前朝に在りと，**寶寅**は**丑奴**の太傅と為るは，豈に**陛下**の時に非ざらん邪？賊臣を剪らざれば，法は安に施こさんと欲するや！」

帝は乃ち**寶寅**に死を駝牛署（続は駝牛署、後魏の官に駝牛都尉あり、署は寺舎、駝騾驢牛を飼うを掌る）に賜り，**丑奴**を都市に斬る。

■六月，丁巳(53-41+1=１３日)，**帝**は復た魏の汝南王の**悦**（494年-533年）を以て**魏王**と為す。

●戊寅（14+60-41+1=３４日?)，魏は詔して**胡氏**の親屬（靈后胡太后の一族）の爵を朝に受ける者は皆な黜けて民と為す。

■庚申（56-41+1=１６日)，魏の降将の**范遵**（魏の北海王顥の舅、顥と共に来奔）を以て安北将軍、司州牧と為し，魏王の**悦**に従いて北に還らしむ。

●［万俟道洛落ちず爾朱天光降格］**万俟丑奴**（ぼくき）は既に敗れ，涇、豳より以西の靈州（後魏は赫連氏を滅ぼして赫連果城を以て薄骨律鎮を置く。孝昌中に至り、鎮を改めて靈州と為す。甘粛省涇原道靈武県、現・寧夏回族自治区銀川市靈武市）に至るまで，賊黨は皆な魏に降り，唯だ署する所の行台の**万俟道洛**は衆六千を帥いて逃げて山中に入りて，降らず。時に高平は大旱し，**爾朱天光**は馬の草に乏しきを以て，退きて城東五十里に屯し，都督の**長孫邪利**を遣わして二百人を帥いて原州（魏の太延二年に高平鎮を置く。正光五年に原州と改め、高平城に治し、高平・長城の二郡を領す。甘粛省涇原道固原県、現・固原市原州区）の事を行い以て之に鎮す。**道洛**は潜に城民と通謀し，(9-097p）**邪利**を掩襲し，其の所部を並せ皆な之を殺す。**天光**は諸軍を帥いて之に赴き，**道洛**は出でて戦い而して敗れ，其の衆を帥いて西に牽屯山（甘粛省涇原道固原県、現・固原市原州区）に入り，険に據りて自ら守る。**爾朱榮**は**天光**の**邪利**を失うを以て，**道洛**を獲ず，復た遣使して之を杖すること一百。詔書を以て**天光**を黜けて撫軍将軍、雍州刺史と為し，降爵して侯と為す。

●［道洛を得て王慶雲は帝を称す］**天光**は**道洛**を牽屯に追撃し，**道洛**は敗走し，隴に入り，略陽（晉の武帝は天水を分けて略陽郡を置く。甘粛省渭川道泰安県の東北、現・天水市秦安県隴城鎮）の賊帥の**王慶雲**に歸す。**道洛**は驍果絶倫にして，**慶雲**は之を得，甚だ喜び，大事は濟る可しと謂い，遂に**帝**を水洛城（甘粛省涇原道静寧県、現・平涼市静寧県）に稱し，百官を置き，**道洛**を以て大将軍と為す。

●[天光は王慶雲を制圧、西方平定]秋，七月，**天光**は諸軍を帥いて隴に入り，水洛城に至り，**慶雲**、**道洛**は出でて戦て，**天光**は**道洛**を射て臂に中たり，弓を失いて還り走る。其の東城を拔く。賊は兵を並せて西城に趣き，城中に水無く，衆は渇乏し，降る者有りて言う、

「**慶雲**、**道洛**は突いて走らんと欲す。」

天光は之を失わんことを恐れ，乃ち人を遣わして**慶雲**を招諭し早く降ら使め，曰く、

「若し未だ能く自ら決せざれば，當に諸人の今夜共に議し，明晨早く報ずるを聽す。」

慶雲等は少しく緩くするを得，因りて夜を待ちて突き出でんを冀い，乃ち報じて曰く、

「請う明日を俟たん。」

天光は因りて謂って曰わ使む、

「水を須（もと）めるを知る，今は相い為に小しく退かん，澗水を獲りて之を飲むに任せん。」

賊衆は悦び，復た走る心無し。**天光**は密に軍士をして多く木槍（拒馬槍、要路を塞ぐ）の，各々長七尺を作ら使め，昏の後，城を繞りて布列し，要路は厚きを加え。又た人を槍中に伏せ，其の衝突に備え，兼ねて密に長梯を城北に縛せ令む。其の夜，**慶雲**、**道洛**は果たして馬を馳せて突き出で，槍に遇い，馬は各々傷つき倒れ，伏兵は起き，即時に之を擒とす。軍士は梯に緣りて入城し，餘衆は皆な城南に出でて，槍に遇い而して止まり，窮窘して降を乞う。丙子（12-10+1=３日)，**天光**は悉く其の仗を収め而して之を坑し，死者は萬七千人，其の家口を分ける。是に於いて三秦（秦・東秦・南秦）、河（河州は乞代の地。魏の太武帝眞君六年に枹罕鎮を置く、後に河州と改める、金城・武始・洪和・臨洮を領す、甘粛省蘭山道導河県、現・寧夏回族自治区臨夏市枹罕鎮）、渭（渭州

は隴西・南安・南安陽・廣寧郡を領す)、瓜（瓜州は敦煌)、涼（河西回廊)、鄯州（禿髪氏の地）は皆な降る。

●［天光復権］**天光**は軍を略陽に頓む。詔して**天光**の官爵を復し，尋いで侍中、儀同三司を加える。**賀拔岳**を以て涇州刺史と為し，**侯莫陳悦**を渭州刺史と為す。秦州の城民は刺史の**駱超**を殺さんと謀り，南秦州の城民は刺史の**辛顯**を殺さんと謀り，**超**、**顯**は皆な之を覺り，走りて**天光**に歸し，**天光**は兵を遣わして討ちて之を平らぐ。

●［宇文泰は原州統治で名声を上げる］歩兵校尉の**宇文泰**は**賀拔岳**に従いて關に入り，功を以て征西將軍に遷り，原州の事を行う。時に關、隴の凋弊（疲弊）し，**泰**は撫するに恩信を以てし，民は皆な感悦し，曰く、

「早に**宇文**使君に遇えば，吾が輩は豈に亂に從わん乎！」

■八月，庚戌（46-40+1=７日），**上**は魏王の**悦**に德陽堂に餞し，兵を遣わして送りて境上に至る。

【魏主と爾朱榮の対立】

●［爾朱榮は外藩実権、帝親政模索］魏の**爾朱榮**は外籓に居ると雖も，遙かに朝政を制し，親黨を樹置し，**魏主**の左右に布列し，(9-098p）動靜を伺察し，大小は必ず知る。**魏主**は制を**榮**に受けると雖も，然れども性は政事に勤め，朝夕倦まず，數々親ら辭訟を覽，冤獄を理(おさ)む。**榮**は之を聞き，悦ばず。**帝**は又た吏部尚書の**李神俊**と選部を清治せんと議し，**榮**は嘗て曲陽縣令を關補（まず補授して後に吏部に關す・まおす）し，**神俊**は階懸（階級は相去ること懸絶し、其の人、應に補して県令とすべからずをいう）を以て，奏さず，別に更に人を擬す。**榮**は大いに怒り，即ち補う所の者を遣わして往きて其の任を奪わしむ。**神俊**は懼れ而して位を辭し，**榮**は尚書左僕射の**爾朱世隆**をして選を攝せ使む。**榮**は北人を啟して河南の諸州と為し，**帝**は未だ之を許さず。太宰の**天穆**は入り見えて面のあたりに論じ，**帝**は猶ほ許さず。**天穆**は曰く、

「**天柱**は既に大功有り，國の宰相為り，若し普(あまね)く天下の官を代えると請うとも，恐らくは**陛下**も亦た之に違うを得ず，如何して數人を啟して州と為すに，遽に用いざる也！」

帝は色を正して曰く、

「**天柱**が若し人臣為らざれば，**朕**も亦た須く代わるべし。如し其の猶ほ臣節を存すれば，天下の百官を代える之理無し！」

榮は之を聞き，大いに恚恨(いこん)して，曰く、

「**天子**は誰に由りて立つを得んや！今乃ち我が語を用いず！」

爾朱皇后は性は妬忌にして，屢々忿恚を致す。**帝**は**爾朱世隆**を遣わして語るに大理を以てせしめ，**后**は曰く、

「**天子**は我が家に由りて置き立つ，今便ち此くの如し。我が父は本即ち自ら作す，今亦た復た決（判なり。天下の事は判決する有るをいう。我が父はもと自ら天子になるを得しなり。今日にも天子になるをえるべし）せん。」

世隆は曰く、

「止(まさ)（正に作るべし）に自ら為さざればなり，若し本自ら之を為せれば，臣も今亦た王に封じられしならん矣。」

帝は既に外は**榮**に逼られ，內に**皇后**に迫られ，恆に怏怏として萬乘を以て樂しと為さず，唯だ寇盜未だ息まざるを幸いとして，**榮**と相い持せ使めんと欲す。關、隴既に定まるに及び，告捷之日は，乃ち甚だ喜ばず，尚書令の臨淮王の**彧**に謂って曰く、

「即ち今天下は便ち是れ賊無し。」

彧は**帝**の色の悦ばざるを見，曰く、
「臣は賊平らぐ之後，方に聖慮を勞せんことを恐れる。」
帝は餘人が之を怪しむを畏れ，還りて它語を以て之を亂して曰く、
「然り。荒餘（兵荒の餘民）を撫寧するは，彌々成すこと易からず。」
榮は四方の無事なるを見，奏して稱す、
「參軍の**許周**は、臣に九錫を取らんを勸む，臣は其の言を惡み，已に斥遣して去ら令む。」
榮は時に殊禮を得ることを望み，故に意を以て朝廷に諷す。**帝**は實は之を與えることを欲せず，因りて其の忠を稱歎す。
●［爾朱榮の苛酷な虎猟の理屈］**榮**は獵を好み，寒暑を捨てず，圍みを列し而して進み，士卒をして必ず齊壹なら令め，險阻に遭うと雖も，違避するを得ず，一鹿逸出すれば，必ず數人は死に坐す。一卒有り虎を見て而して走れば，**榮**は謂って曰く、
「汝は死を畏れる邪！」
即ち之を斬る。是より獵する毎に，士卒は戰場に登るが如し。嘗て虎の窮谷中に在るを見，**榮**は十餘人をして空手にして之を搏し，損傷を得る毋から令む。死者は數人，卒に之を擒得し，此を以て樂しみと為し，其の下は甚だ之を苦しむ。太宰の**天穆**は從容として**榮**に謂って曰く、
「**大王**の勳業は已に盛んにして，四方は無事なり，唯だ宜しく政を修め民を養い，（9-099p）時に順いて蒐狩（続による、搜狩×、、狩猟をいう、蒐は春の狩、狩は冬の狩）すべし，何ぞ必ずしも盛夏に馳逐し，和氣を感傷するや？」
榮は袂を攘いて曰く、
「**靈后**は女主にして，自ら正しくする能わず，**天子**を推奉するは，乃ち人臣の常節なり。**葛榮**之徒は，本皆な奴才にして，時に乘じて作亂し，譬えば奴の走るが如し，擒獲すれば即ち已む。頃來國の大恩を受け，未だ海內を混壹する能わず，何ぞ遽に勳業を言うを得んや！聞くが如くならば朝士は猶ほ自ら寬縱なり，今秋兄と士馬を戒勒し，嵩高に校獵し，貪污の朝貴をして，圍みに入りて虎を搏せ令めんと欲す。仍って魯陽に出，三荊（北荊州・東荊州・南荊州）を歷，悉く生蠻（諸蠻戸の未だ魏に附かざる者）を擁し，北に六鎮を填し（六鎮叛乱し鎮戸は荒廃し、故にこれを鎮せんと為す），軍を回す之際は，汾胡（稽胡は皆汾州の界に居る）を掃平す。明くる年，精騎を簡練し，分けて江、淮に出，**蕭衍**若し降れば，萬戶侯を乞えん。如し其の降らざれば，數千騎を以て徑ちに度りて縛取せん。然る後に兄と**天子**を奉じて，四方を巡り，乃ち勳と稱する可き耳。今頻りに獵せざれば，兵士は懈怠し，安んぞ復た用いる可けん也！」
●［帝側近の爾朱榮排除の陰謀］城陽王の**徽**之妃は，**帝**之舅の女なり。侍中の**李彧**は，**延寔**之子なり，**帝**之姊の婿也。**徽**、**彧**は權寵を得んと欲し，**榮**が己の害を為すを惡み，日々**榮**を**帝**に毀り，**帝**に之を除くを勸める。**帝**は河陰之難（152 巻にあり）に懲り，**榮**の終に保ち難しを恐れ，是に由りて密に**榮**を圖る之意有り。侍中の**楊侃**、尚書右僕射の**元羅**（元義の弟）も亦た其の謀に預る。
●［帝の逡巡］會々**榮**は朝に入るを請い，**皇后**の娩乳（子を産む）するを視んと欲し。**徽**等は**帝**に其の入るに因り，刺して之を殺さんと勸める。唯だ膠東侯の**李侃晞**、濟陰王の**暉業**は言う、
「**榮**若し來たらば，必ず當に備え有らん，恐らくは圖る可からざらん。」
又た其の黨與を殺し，兵を發して之を拒まんと欲す。**帝**は疑いて未だ定まらず，而して洛陽の人は憂懼を懷き，中書侍郎の**邢子才**（邢邵、字は子才、魏主の兄の澎城王の邵の諱を避ける）之徒は已に之を避けて東に出る。**榮**は乃ち遍く朝士に書を與え，去留に相任す。中書舍人の**溫子升**は書を以て**帝**に呈し，**帝**は恆に其の來たざ

るを望み，書を見るに及び，**榮**は必ず來たると以てし，色は甚だ悦ばず。**子才**の名は**邵**，字を以て行われ，**樊**（魏の宣武帝に事える、屢々将領を以て功有り）之族弟也。時の人は字を以て行う者多し，舊史は皆な之に因る。

●［**奚毅の帝への忠誠**］武衛將軍の**奚毅**（152 巻大通二年にあり）は，建義の初め往來して命を通じ，**帝**は毎に之を期すること甚だ重く，然るに猶ほ**榮**が親信する所を以て，敢えて之と情を言わず。**毅**は曰く、

「若し必ず變有れば，臣は寧ろ**陛下**に死すとも，契胡（爾朱榮は契胡種）に事える能わず！」

帝は曰く、

「**朕**は**天柱**が異心無きを保つ，亦た卿の忠款（忠誠）を忘れず。」

●［**爾朱世隆は政変を予想**］**爾朱世隆**は**帝**が變を為さんと欲するを疑い，乃ち匿名の書を為り自ら其の門に榜して云わく、

「**天子**は**楊侃**、**高道穆等**と計を為し，**天柱**を殺さんと欲す。」

取りて以て**榮**に呈す。**榮**は自ら其の強きを恃み，以て意と為さず，手ずから其の書を毀（やぶ）り，地に唾して曰く、

「**世隆**は膽無し。誰か敢えて心を生じん！」(9-100p)

榮の妻の**北鄉長公主**（妻は元氏に非ず）も亦た**榮**に行かざるを勸め，**榮**は從わず。

●［**爾朱榮周辺は九爵の上を目指す**］是の月，**榮**は四五千騎を將して并州を發し，時の人は皆な**榮**が反すと言い，又た云う、

「**天子**は必ず當に**榮**を圖るべし」。

九月，**榮**は洛陽に至り，**帝**は即ち之を殺さんと欲し，太宰の**天穆**が并州に在るを以て，後患を為すを恐れ，故に忍びて未だ發せず，並せて**天穆**を召す。人有り**榮**に告げて云く、

「**帝**は之を圖らんと欲す。」

榮は即ち具に奏し，**帝**は曰く、

「外人は亦た言う、王は我を害せんと欲すと，豈に之を信じる可けんや！」

是に於いて**榮**は自ら疑わず，入りて**帝**に謁する毎に，從人は數十に過ぎず，又た皆な挺身して兵仗を持たず。**帝**は止めんと欲し，城陽王の**徽**は曰く、

「縦（たと）い反せずとも，亦た何ぞ耐える可けんや！況んや保つ可からざる邪！」

是より先，長星（彗星。傳に曰く、彗星は旧を除き新を布く所以なりと）は中台（三台の中台の上星を諸侯三公と為す）に出，大角（天王の座）を掃う。恆州人の**高榮祖**は頗る天文を知る，**榮**は之に問い，對えて曰く、

「舊を除き新を布く之象也。」

榮は甚だ悦ぶ。**榮**は洛陽に至り，行台郎中の**李顯和**（幷津九州行台の郎中たり、時にに従いて洛陽に至る）は曰く、

「**天柱**は至り，那ぞ九錫無き，安んぞ王の自ら索（もと）むるを須たん也！亦た是れ**天子**は機を見ざるなり。」

都督の**郭羅刹**（続は羅察）は曰わく、

「今年は真に禪文を作る可し，何ぞ但だに九錫ならん！」（河陰の変に榮は禪文を作らしむ）

參軍の**褚光**は曰く、

「人は言う、并州の城上に紫氣有り，何ぞ**天柱**の之に應じざるを慮からん！」

榮の下人は皆な**帝**の左右を陵侮し，忌憚する所無し，故に其の事皆な上聞す。

●［**帝も吉兆を気にする**］**奚毅**は又た**帝**に見え，間を求め，**帝**は即ち明光殿を下り與に語る。其の至誠を知り，乃ち城陽王の**徽**及び**楊侃**、**李彧**を召して，告げるに**毅**の語を以てす。**榮**の小女は**帝**の兄の子の陳留王の**寬**に適い，**榮**は嘗て之を指さして曰く、

「我は終に當に此の婿の力を得る。」
徽は以て**帝**に白して，曰く、
「**榮**は**陛下**の終に己が患を為さんことを慮る，脱し**東宮**有れば，必ず孩幼を貪り立てん，若し**皇后**が**太子**を生まざれば，則ち陳留を立てん耳。」
帝は夢に手に刀を持ち自ら十指を割落す，之を惡み，**徽**及び**楊侃**に告げる。**徽**は曰く、
「蝮蛇が手を螫(さ)せば，壯士は腕を解く。指を割くとも亦た是れ其の類，乃ち吉祥也。」

【爾朱榮誅殺】

●［帝は爾朱榮との出猟を疑う］戊子(24-10+1=１５日)，**天穆**は洛陽に至り，**帝**は出でて之を迎える。**榮**は**天穆**と並んで従いて西林園に入り宴射し，**榮**は奏して曰く、
「近來侍官は皆な習武せず，**陛下**は宜しく五百騎を將いて獵に出で，因りて辭訟を省すべし。」
是より先，**奚毅**は言わく、
「**榮**は獵に因りて**天子**を挾みて都を移さんと欲す」
と，是に由りて**帝**は益々之を疑う。
●［帝は爾朱榮誅殺を決意］辛卯（27-10+1=１８日），**帝**は中書舍人の**溫子升**を召し，告げるに**榮**を殺すの狀を以てし，並せて問うに**董卓**を殺すの事（60 巻漢の獻帝初平三年にあり）を以てし，**子升**は具に本末を通じる。**帝**は曰く、
「**王允**が若し即ち涼州人を赦せば，必ず應に此に至らざるべし。」
良く久しく，**子升**に語りて曰く、
「**朕**之情理は，卿の具に知る所なり。死すとも猶ほ須く為すべし，況んや必ずしも死せざるをや！吾は寧ろ**高貴鄉公**（曹魏の高貴鄉公は司馬昭を誅殺せんとして死す）と為り死すとも，(9-101p) **常道鄉公**（禅譲して生きる）と為りて生きず！」
帝は謂えらく、**榮**、**天穆**を殺し，即ち其の黨を赦せば，皆な應に動かざると。應詔の**王道習**は曰く、
「**爾朱世隆**、**司馬子如**、**朱元龍**は特に**榮**の委任する所と為り，具に天下の虛實を知る，謂うに宜しく留める可からず。」
徽及び**楊侃**は皆な曰し、
「若し**世隆**全からざれば，**仲遠**（徐州に鎮す）、**天光**（關隴に鎮す）は豈に來たる理有らんや！」
帝も亦た以て然ると為す。**徽**は曰く、
「**榮**の腰間には常に刀有り，或は能く狼戾（狼藉）にして人を傷けん，事に臨みて願わくは**陛下**は起ちて之を避けるべし。」
乃ち**侃**等十餘人を明光殿の東に伏す。其の日，**榮**は**天穆**と並んで入り，坐食し未だ訖(おわ)らざるに，起ち出で，**侃**等は東階より殿に上り，**榮**を見、**天穆**は已に中庭に至り，事は果たさず。
●［陰謀漏れるも軽んじる］壬辰（28-10+1=１９日），**帝**の忌曰（親喪の日）なり。癸巳（29-10+1=２０日），**榮**の忌日なり。甲午（30-10+1=２１日），**榮**は暫(しばら)く入り，即ち陳留王の家に詣りて飲灑し（続は飲酒），極めて醉い，遂に病い動けりと言い，頻日入らず。**帝**の謀は頗る洩れ，**世隆**は又た以て**榮**に告げ，且つ其の速かに發せんことを勸める。**榮**は**帝**を輕んじ，以為えらく能く為す無しとす，曰く、
「何の匆匆たらん！」
●［太子出産と偽り呼んで、榮を誅殺］**帝**の謀に預る者は皆な懼れ，**帝**は之を患う。城陽王の**徽**は曰く、

「**太子**を生むを以て辭と為せば，**榮**は必ず入朝せん，此に因りて之を斃さん。」
帝は曰く、
「**后**は懐孕して始めて九月，可なる乎？」
徽は曰く、
「婦人は期に及ばずして而して產む者は多し矣，彼は必ず疑わず。」
帝は之に従う。戊戌（34-10+1=２５日），**帝**は兵を明光殿の東序に伏し，**皇子**生まれると聲言し，**徽**を遣わして騎を馳せて**榮**の第に至りて之を告げしむ。**榮**は方に上黨王の**天穆**と博し，**徽**は**榮**の帽を脱し，歡舞盤旋し（胡族のの礼なり），兼ねて殿内の文武は聲を傳えて之を趣（うなが）し，**榮**は遂に之を信じ，**天穆**と倶に入朝す。
帝は**榮**の來たるを聞き，覺えず色を失い，中書舍人の**溫子升**は曰く、
「**陛下**の色は變ず。」
帝は連（しきり）に酒を索（もと）めて之を飲む。**帝**は**子升**をして赦文を作ら令め，既に成り，執りて以て出で，**榮**が外より入るに遇い，問う、
「是れ何の文書か？」
子升の顔色は變わらず，曰く、
「敕。」
榮は取り視ず而して入る。**帝**は東序の下に在りて西に向かいて坐り，**榮**、**天穆**は御榻の西北に在りて南に向かいて坐る。**徽**は入り，始めて一拜し，**榮**は光祿少卿（漢の九卿は正卿一人、魏の高祖太和十年に初めて各々少卿一人を置く）の**魯安**、典御（嘗食典御）の**李侃晞**等が刀を抽きて東戸より入るを見，即ち起ちて御座に趨る。**帝**は先に刀を膝下に横たえ，遂に之を手刃す。**安**等は亂斫（滅多切り）し，**榮**は**天穆**と同時に倶に死す。**榮**の子の**菩提**及び車騎將軍の**爾朱陽睹**等三十人は**榮**に従いて宮に入り，亦た伏兵の殺す所と為る。**帝**は**榮**の手板を得，上に數牒の啟有り。皆な左右去留の人名，其の腹心に非ざる者は悉く出限（帝の左右にあらしめず）に在り。**帝**は曰く、
「豎子若し今日を過ぎれば，遂に制す可からず。」
是に於いて内外は喜噪し，聲は洛陽城に滿ち，百僚は入りて賀す。**帝**は閶闔門に登り，下詔して大赦し，武衛將軍の**奚毅**、前燕州刺史の**崔淵**を遣わして兵を將いて北中に鎮せしむ。**(9-102p)** 是の夜，**爾朱世隆**は**北鄉長公主**（爾朱榮の妻）を奉じて**榮**の部曲を帥いて，西陽門（洛陽城の西明門）を焚き，出でて河陰に屯す。
●［賀拔勝などは逃亡せず］衛將軍の**賀拔勝**は**榮**の黨の**田怡**等と**榮**の死を聞き。奔りて**榮**の第に赴く。時に宮殿の門は猶ほ未だ嚴防を加えず，**怡**等は議して即ち門を攻め，**勝**は之を止めて曰く、
「**天子**は既に大事を行う，必ず當に備え有らん，吾等は衆少なし，何の輕々しく爾（しか）す可けん！但だ城を出て，更に它計を為すを得るのみ。」
怡は乃ち止む。**世隆**の走るに及び，**勝**は遂に從わず，**帝**は甚だ之を嘉とす。**朱瑞**（榮のもと行台郎中、黄門侍郎兼中書舍人）は**榮**の委ねる所と為ると雖も，而も善く朝廷之間に處し，**帝**も亦た善く之を遇す，故に**瑞**は**世隆**に從いて走り而れども中道にして逃げ還る。

【爾朱氏の反撃攻勢】

●［司馬子如の反転攻勢指南］**榮**は素より金紫光祿大夫の**司馬子如**と厚く，**榮**は死し，**子如**は宮中より突出して，**榮**の第に至り，家を棄て，**榮**の妻子に隨いて走り城を出る。**世隆**は即ち北に還らんと欲し，**子如**は曰く、

「兵は詐を厭わず，今天下は恟恟として，唯だ強きを是れ視る，此之際に當たりては，弱きを以て人に示す可からず。若し亟に北に走れば，恐らくは變は肘腋に生じん。兵を分けて河橋を守るに如かず，軍を還して京師に向かい，其の不意に出でれば，或は成功す可からん。假使(たとい)欲する所を得ずとも，亦た餘力有るを示すに足り，天下をして我之強きを畏れ，敢えて叛散せざら使めん。」

世隆は之に從う。己亥（35-10+1=２６日）河橋を攻め，**奚毅**等を擒とし，之を殺し，北中城に據る。魏朝は大いに懼れ，前華陽（魏は漢中の沔陽西県を分けて華陽郡を置く、華山の南）太守の**段育**を遣わして之を慰諭せしめ，**世隆**は首を斬りて以て徇(とな)う。

●［爾朱天光・楊津の懐柔］魏は雍州刺史の**爾朱天光**を以て侍中、儀同三司と為し，司空の**楊津**を以て都督並、肆等九州諸軍事、驃騎大將軍、并州刺史と為し，尚書令、北道大行台を兼ね，河、汾を經略せしむ。

●［高敖曹・高乾兄弟は皇帝に心服］**榮**之入洛する也，**高敖曹**を以て自ら隨わせ（152巻大通二年にあり），駝牛署に禁ず。**榮**は死し，**帝**は引見し，之を勞勉す。兄の**乾**は東冀州（魏の孝昌末に葛栄は乱を為すや、高翼は衆を河済の間に聚める、魏は因りて東冀州を置き、翼を以て刺史と為す、翼は乾の族なり）より馳せて洛陽に赴き，**帝**は**乾**を以て河北大使と為し，**敖曹**を直閤將軍と為し，歸り，鄉曲を招集して表裡形援を為さ使む。**帝**は親ら之を河橋（胡三省曰く、敖曹兄弟は鄉里に帰る、路は當に東に出るべし、河橋は洛城の北に在り、帝は應にこれを此に送るべからず、河橋の二字は意うに必ず誤有らんと）に送り，酒を舉げ水を指して曰く、

「卿の兄弟は冀部の豪傑なり，能く士卒をして死を致さ令む，京城が倘(も)し變有れば，**朕**の為に河上に一たび揚塵を揚げる可し。」

乾は涕を垂れて受詔し，**敖曹**は劍を援き起ちて舞い，誓うに必死を以てす。

●［爾朱拂律歸は爾朱榮の屍を求める］冬，十月，癸卯（39-39+1=１日）朔，**世隆**は**爾朱拂律歸**を遣わして胡騎一千を將して，皆な白服し，來たりて郭下に至り，**太原王**（爾朱榮）の屍を索めしむ。**帝**は大夏門（洛陽城北に大夏・廣莫二門あり）に升りて之を望み，主書の**牛法尚**を遣わして之に謂って曰わしむ、

「**太原王**は功を立てて終わらず，陰に覺逆を圖り，王法（王者の法は必ず行い、親と雖も赦す無し）に親無し，已に刑書を正す。罪は**榮**の身に止まり，餘は皆な問わず。卿等が若し降れば，官爵は故の如し。」(9-103p)

拂律歸は曰く、

「臣等は**太原王**に從いて入朝し，忽ち冤酷を致す，今空しく歸るに忍ぱず。願わくは**太原王**の屍を得て，生死は恨み無し。」

因りて涕泣し，哀しみは自ら勝えず，群胡は皆な慟哭し，聲は城邑を振わす。**帝**も亦た之が為に愴然とし侍中の**朱瑞**を遣わして鐵券を繼して**世隆**に賜う。**世隆**は**瑞**に謂って曰く、

「**太原王**の功は天地に格たり，赤心にして國に奉じ，**長樂**（魏の敬宗はもと長樂王）は信誓を顧ず，枉(ま)げて屠害を加えたり，今日の兩行の鐵字は，何ぞ信じる可きに足る！吾は**太原王**の為に仇を報い，終に降るの理無し！」

瑞は還り，**帝**に白し，**帝**は即ち庫物を出して城西の門外に置き，敢死之士を募り以て**世隆**を討たんとし，一日に即ち萬人を得，**拂律歸**等と郭外に戰う。**拂律歸**等は戎旅に生長し，洛陽之人は戰鬥を習わず，屢々戰いて克たず。甲辰（40-39+1=２日），前車騎大將軍の**李叔仁**を以て大都督と為し，衆を帥いて**世隆**を討たしむ。

●［魏蘭根を河北行台］戊申（44-39+1=６日），**皇子**は生まれ，大赦す。中書令の**魏蘭根**を以て尚書左僕射を兼ねしめ，河北行台と為し，定、相、殷三州は皆な**蘭根**の節度を稟けしむ。

●［李苗は河橋を焼きくも援軍無く壊滅］**爾朱氏**の兵は猶ほ城下に在り，**帝**は群臣を集めて博く議し，皆

な恇懼し，出でる所を知らず。通直散騎常侍の**李苗**は衣を奮いて起ちて曰く、
「今小賊は唐突すること此くの如し，朝廷は不測之危有り，正に是れ忠臣烈士の節を效(いた)す之日なり。臣は武ならずと雖も，請う一旅之衆（旅団は五百人）を以て**陛**下の為に徑に河橋を斷たん。」
城陽王の**徽**、**高道穆**は皆な以て善しと為し，**帝**は之を許す。乙卯（51-39+1=１３日），**苗**は人を募りて馬渚の上流より船に乗りて夜下り，橋を去ること數里，火船を縦ちて河橋を焚き，倏忽(しゅうこつ)とし而して至る。**爾朱氏**の兵の南岸に在る者は，之を望み，橋を爭いて北に度る。俄に而して橋は絕ち，溺死者は甚だ衆し。**苗**は百許りの人を將いて小渚に泊し以て南援の官軍を待つ，至らず。**爾朱氏**は就きて之を擊ち，左右は皆な盡き，**苗**は水に赴きて死す。**帝**は之を傷惜し，車騎大將軍、儀同三司を贈り，河陽侯に封じ，謚して**忠烈**と曰う。**世隆**も亦た兵を収めて北に遁げる。丙辰（52-39+1=１４日），行台の**源子恭**に詔して歩騎一萬を將して西道に出でしめ，**楊昱**は募士（洛陽郊外で募集した兵）八千を將して東道に出でて以て之を討たしむ。**子恭**は仍って太行の丹谷（水經注に丹水は上黨高都県の故城の東北の阜下に出て、東南流して丹谷に注ぐと。丹谷は太行關の東にあり）に鎮し，壘を築いて以て之を防く。**世隆**は建州（慕容永は上黨を分けて建興郡を置く。魏の眞君元年省き、倭兵五年に復活。永安中に郡をやめ建州を置き、高都城に治し、高都・長兵・安平・恭寧郡を領す。高都城は山西省冀寧道晉城県、現・晋城市）に至り，刺史の**陸希質**は城を閉じて拒み守る。**世隆**は攻めて之を抜き，城中の人を殺し遺類無く，以て其の忿りを肆(ほしいまま)にし，唯だ**希質**は走り免る。詔して前東荊州刺史の**元顯恭**を以て晉州（魏の孝昌中に唐州を置き、建義元年に晉州に改名、白馬城に治す）刺史と為し，尚書左僕射、西道行台を兼ねしむ。
●[斛斯椿は魏王悦に帰属]魏の東徐州刺史の廣牧（漢の朔方東部都尉の治所、魏は朔方を省き廣牧県を新興郡に属す、鄂爾多斯右翼後旗、現・オルドス）の**斛斯椿**は素より**爾朱榮**に依附し，**榮**は死し，**椿**は懼れる。汝南王の**悦**の境上に在るを聞き，(9-104p) 乃ち部衆を帥いて州を棄てて**悦**に歸す。**悦**は**椿**に侍中、大將軍、司空を授け，靈丘郡公に封じ，又た大行台前驅都督と為す。

【爾朱氏は元曄を皇帝擁立】

●[爾朱氏は長廣王の曄を皇帝に推挙]汾州刺史の**爾朱兆**は**榮**の死するを聞き，汾州より騎を帥いて晉陽に據る。**世隆**は長子に至り，**兆**は之に來會し，壬申（8+60-39+1=３０日），共に太原太守、行并州事の長廣王の**曄**を推して**皇帝**の位に即かしめ，大赦し，改元して建明とす。**曄**は，**英**（中山王英は功を太和・正始にあらわす）之弟の子也。**兆**を以て大將軍と為し，爵を進めて王と為す。**世隆**を尚書令と為し，爵の樂平王を賜り，太傅、司州牧を加える。又た**榮**の從弟の**度律**を以て太尉と為し，爵の常山王を賜る。**世隆**の兄の天柱長史の**彦伯**を侍中と為す。徐州刺史の**仲遠**を車騎大將軍と為し，尚書左僕射、三徐州（徐州は澎城に治し、北徐州は琅邪に治し、東徐州は下邳に治す、以上は長廣王の除授する所）大行台を兼ねしむ。**仲遠**は亦た兵を起こして洛陽に向かう。
●**爾朱天光**之平涼に克つ也，**宿勤明達**（胡琛・万俟醜奴の武将）は降らんと請い，既に而して復た叛し，北に走る。**天光**は**賀拔岳**を遣わして之を討たしめ，**明達**は東夏（陝西省榆林道膚施県、現・延安市宝塔区）に奔る。**岳**は**爾朱榮**の死するを聞き，復た窮追せず，涇州に還り以て**天光**を待つ。**天光**は**侯莫陳悦**と與に亦た隴に下り，**岳**と謀り兵を引いて洛に向かう。魏の**敬宗**は**朱瑞**をして**天光**を慰諭せ使め，**天光**は**岳**と謀り，**帝**をして外に奔ら令め而して更に宗室を立てんと欲し，乃ち頻りに啟して云わく、
「臣は實に異心無し，唯だ仰ぎて天顔を奉じ，以て宗門之罪を申べんと欲すのみ。」
又た其の下の僚屬をして啟して云わ使む、（天光は両端を設けて魏朝を戸惑わす）
「**天光**は密に異圖有り，願わくは勝算を思いて以て之を防ぐべし。」

●［侯淵の中山攻撃］范陽太守の**盧文偉**は平州刺史の**侯淵**（元平州を領し、范陽に鎮す、漢の涿郡）を誘いて獵に出，閉門して之を拒む。**淵**は郡南に屯し，**榮**の為に哀を舉げ，兵を勒して南に向かい，進みて中山に至り，行台僕射の**魏蘭根**は之を邀え撃ち，**淵**の敗る所と為る。

●［ケチの元徽は去就に迷う］**敬宗**（ここから魏主でなくなる）は城陽王の**徽**を以て大司馬を兼ね、尚書事を錄し，內外を總統せしむ。**徽**は意に謂えらく、**榮**は既に死し，枝葉は自ら應に散落すべし，**爾朱世隆**等の兵四起し，黨衆は日々に盛んなるに及び，**徽**は憂怖し，出ずる所を知らず。性は忌嫉多く，人の己の前に居るを欲せず。毎に獨り**帝**と謀議し，群臣の策を獻ずる者有れば，**徽**は輒ち**帝**に納れざるを勸め，且つ曰く、「小賊は何ぞ平がざるを慮からん！」

又た財貨を靳惜し，賞賜は率ね皆な薄少にして，或は多く而るに中ごろ減じ，或は與えて而も復た追い，故に徒らに糜費する有り而して恩は物を感ぜしめず。十一月，癸酉（9-9+1=１日）朔，**敬宗**は車騎將軍の**鄭先護**を以て大都督と為し，行台の**楊昱**と共に**爾朱仲遠**を討たしむ。

●乙亥（11-9+1=３日），司徒の**長孫稚**を以て太尉と為し，臨淮王の**彧**を司徒と為す。

●［敬宗と長廣王とも爾朱天光に対して多数派工作］丙子（12-9+1=４日），雍州刺史の廣宗公の**爾朱天光**の爵を進めて王と為す。**長廣王**も亦た**天光**を以て隴西王と為す。

●［敬宗側疑心暗鬼、賀拔勝は爾朱仲遠に破れ降る］**爾朱仲遠**は西兗州（魏の太和中に置く、治所は滑台、孝昌中治所は定陶でこの時は兗州の治所が滑台）を攻め，丁丑（13-9+1=５日），之を抜き，刺史の**王衍**を擒とす。(9-105p)**衍**は，**蕭**（齊を去り魏に亡命）之兄子也。癸未（），**敬宗**は右衛將軍の**賀拔勝**を以て東征都督と為す。壬辰（28-9+1=２０日），又た**鄭先護**を以て尚書左僕射を兼ね、行台と為し，**勝**と共に**仲遠**を討たしむ。戊戌（34-9+1=２６日），詔して**魏蘭根**の行台を罷め，定州刺史の**薛曇尚**を以て尚書を兼ね，北道行台と為す。**鄭先護**は**賀拔勝**を疑い，之を營外に置く。庚子（36-9+1=２８日），**勝**は**仲遠**と滑台の東に戰い，兵は敗れ，**仲遠**に降る。

●［高歡は爾朱兆の誘いを断る］初め，**爾朱榮**は嘗て從容として左右に問いて曰く、

「一日我無ければ，誰か軍を主る可きや？」

皆な**爾朱兆**を稱す。**榮**は曰く、

「**兆**は戰鬥に勇なりと雖も，然るに將いる所は三千騎に過ぎず，多ければ則ち亂れん矣。我に代わるに堪える者は，唯だ**賀六渾**（高歡の字）耳。」

因りて**兆**を戒めて曰く、

「爾は其の匹（たぐい）に非ず，終に當に其れに鼻を穿つ（喩えるに牛を以てす、牛鼻既に穿たれる時は人が制するなり）と為るべし。」

乃ち**高歡**を以て晉州刺史と為す。**兆**が兵を引いて洛に向かうに及び，遣使して**歡**を召し，**歡**は長史の**孫騰**を遣わして**兆**に詣らしめ，辭して以わく、

「山蜀（蜀人は汾晉に遷り山に依りて居る者）は未だ平らがず，今方に攻討す，委ね去る可からず，後憂有るを致さん。蜀を定める之日，當に河を隔てて犄角之勢いを為すべし。」

兆は悅ばず，曰く、

「還りて**高**晉州に白せ，吾は吉夢を得たり，夢には吾が先人と與に高丘に登り，丘旁之地は，之を耕して已に熟し，獨り馬藺（本草に蠡實は馬藺子なり、冀州に出ると。圖經に曰く、馬藺子は河東の川谷に生ず、葉は薤に似て長く厚しと。衍義に曰く、馬藺の葉は牛馬皆食わず。纔に土を出ずれば葉既に硬きが為なりと）を餘す，先人は吾に命じて之を抜かしめ，手に隨い而して盡く。此を以て之を觀るに，往けば克たざる無し。」

騰は還りて報じ，**歡**は曰く、
「**兆**は狂愚なること是くの如し，而るに敢えて悖逆を為す，吾が勢いは久しく**爾朱**に事えるを得ず矣。」
●［**爾朱兆は洛陽を急襲、皇帝捕縛**］十二月，壬寅（38-38+1=１日）朔，**爾朱兆**は丹谷を攻め，都督の**崔伯鳳**は戦死し，都督の**史仵龍**は壁を開きて降を請い，**源子恭**は退き走る。**兆**は輕兵にして倍道兼行し，河橋の西より渉渡す。是より先，**敬宗**は大河の深く廣きを以て，**兆**は未だ猝に濟る能わずと謂い，是の日，水は馬腹を沒せず。甲辰（40-38+1=３日），暴風，黄塵は天に漲り，**兆**の騎は宮門を叩き，宿衛は乃ち覺め，弓を彎きて射んと欲し，矢は發するを得ず，一時に散走す。華山王の**鷙**は，**斤**（代を乱すこと 140 巻晉の孝武帝太元元年にあり）之玄孫也，素より**爾朱氏**に附く。**帝**は始めて**兆**の南下を聞き，自ら諸軍を帥いて之を討たんと欲し，**鷙**は**帝**を說いて曰く、
「黄河は萬仞なり，**兆**は安んぞ渡るを得ん！」
帝は遂に自ら安ず。**兆**が宮に入るに及び，**鷙**は復た衛兵を約止し鬥わ使めず。**帝**は歩みて雲龍門の外に出で，城陽王の**徽**が乘馬して走るに遇い，**帝**は屢々之を呼ぶも，顧みず而して去る。**兆**の騎は**帝**を執り，永寧寺の樓上に鎖す。**帝**は寒きこと甚しく，**兆**に就きて頭巾を求め，與えず。**兆**は尚書省に營し，**天子**の金鼓を用い，刻漏を庭に設け，**皇子**（爾朱后の生む子）を撲殺し，嬪御妃主を污辱し，兵を縱ちて大掠し，司空の臨淮王の**彧**、尚書左僕射の范陽王の**誨**、青州刺史の**李延寔**等を殺す。
●［**元徽は寇祖仁に裏切られる**］城陽王の**徽**は走りて山南（伊顆南山の南）に至り，前洛陽令の**寇祖仁**の家に抵る。**祖仁**の一門は三刺史あり，皆な**徽**の引拔する所なり，舊恩有るを以て，（9-106p）之に投ず。**徽**は金百斤，馬五十匹を齎し，**祖仁**は其の財を利とし，外は容納すと雖も，而して私に子弟に謂って曰く、
「聞くが如く**爾朱兆**は**城陽王**を購募し，之を得る者は千戸侯に封じると，今日富貴至れり矣！」
乃ち**徽**を怖して雲わく、
「官捕は將に至らんとす」
と，其れをして它所に逃げ令め，人をして路に之を邀えて殺さ使め，首を**兆**に送る。**兆**は亦た勳賞を加えず。**兆**は夢に、**徽**は己に謂って曰く、
「我は金二百斤、馬百匹有りて**祖仁**の家に在り，卿は之を取る可し。」
兆は既に覺め，夢みる所を意いて實と為し，即ち**祖仁**を掩捕し，其の金、馬を征す。**祖仁**は人が密告せりと謂い，風を望みて款服（誠実に白状）して，云わく、
「實に金百斤、馬五十匹を得たり。」
兆は其の隱匿するを疑い，夢に依りて之を征し，**祖仁**の家は舊に金三十斤、馬三十匹有り，盡く以て**兆**に輸り，**兆**は猶ほ信じず，怒り發し，**祖仁**を執り，首を高樹に懸け，大石を足に墜し，之を捶ちて死に至らしむ。

【爾朱兆の皇帝殺害】

●［**爾朱兆は爾朱世隆を責める**］**爾朱世隆**は（長子より）洛陽に至り，**兆**は自ら以て己が功と為し，**世隆**を責めて曰く、
「叔父（世隆は榮の從弟、兆は從子。靈后は臨朝する時に世隆は已に朝に在り）は朝に在ること日久しく，耳目は應に廣し，如何ぞ**天柱**をして禍いを受け令めし！」
劍を按じて目を瞋らし，聲色は甚だ厲し。**世隆**は遜辭拜謝し，然る後に已むを得たり，是に由り深く之を恨む。**爾朱仲遠**も亦た滑台ょり洛に至る。

●戊申（44-38+1=７日），魏の**長廣王**は大赦す。

●［**爾朱兆は敬宗を晉陽に遷す**］**爾朱榮**の之死する也，**敬宗**は河西（北河の西に居る）の賊帥の**紇豆陵步蕃**に詔して秀容を襲わ使む。**兆**の入洛するに及び，**步蕃**は南下し，兵勢は甚だ盛んなり，故に**兆**は久しく留まる暇あらず，亟に晉陽に還り以て之を御ぎ，**爾朱世隆**、**度律**、**彥伯**等をして留まりて洛陽に鎮せ使む。甲寅（50-38+1=１３日），**兆**は**敬宗**を晉陽に遷す。**兆**は自ら河梁（河橋）に於いて財資を監閲す。**高歡**は**敬宗**が晉陽に向かうを聞き，騎を帥いて東巡し，之を邀えんと欲し，及ばず。因りて**兆**に書を與え，為に禍福を陳べ，

「**天子**を害して，惡名を受けるは宜しからず。」

兆は怒り，納れず。**爾朱天光**は輕騎にして洛に入り，**世隆**等に見え，即ち雍州に還る。

●［**敬宗は南走る暇もなし、李苗追奪せず**］初め，**敬宗**は北軍（源子恭の丹谷に鎮する軍）の不利を恐れ，南走之計を為さんと欲す，托して蠻を征すと雲い，**高道穆**を以て南道大行台と為し，未だ發するに及ばす而して**兆**は入洛す。**道穆**は疾に托して去り，**世隆**は之を殺す。主者は**李苗**の封贈を追わん（追奪）と請い，**世隆**は曰く、

「當時衆議は，一二日を更、即ち兵を縱ちて大掠し，郭邑を焚燒せんと欲し，**苗**之故に賴りて，京師は全きを獲たり。天下之善は一也，宜しく復た追うべからず。」

●［**泰寧太守房謨は蜀人に人気あり**］**爾朱榮**之死する也，**世隆**等は大寧（魏の孝昌中に泰寧郡を置き建州に属す。大は泰に作るべし。山西省冀寧道沁水県の界、現・晋城市沁水県）太守の代人の**房謨**に於いて徵兵す。**謨**は應じず，前後其の三使を斬り，弟の**毓**を遣わして洛陽に詣らしむ。**兆**が志を得るに及び，其の黨の建州刺史の**是蘭安定**は**謨**を執り州獄に系ぎ，郡中の蜀人（汾蜀・絳蜀の類い）は之を聞き，皆な叛す。**安定**は**謨**に弱馬を給し，軍前に慰勞せ令む。**(9-107p)** 諸賊は**謨**を見，遙に拜せざるは莫し。**謨**が先に乘る所の馬は，**安定**は別に將士に給す。戰いて敗れ，蜀人は之を得，**謨**は害に遇うと謂い，悲泣せざるは莫し，善く其の馬を養い，人之に乘るを聽さず。兒童婦女は競いて草粟を投じ，皆な言わく、

「此れ**房公**の馬也。」

爾朱世隆は之を聞き，其の罪を捨て，以て其の府の長史と為す。

●［**楊津は帰還**］北道大行台の**楊津**は，衆少なきを以て，鄴に留まりて召募し，滏口より并州に入らんと欲し，會々**爾朱兆**は洛に入り，**津**は乃ち衆を散じ，輕騎にして朝に還る。

●［**長廣王母衛氏の暗殺**］**爾朱世隆**は兄弟と密謀し，長廣王の母の**衛氏**が朝政に干預せんことを慮り，其の出行を伺い，數十騎を遣わして劫盜の者の如くして京巷（洛陽の曲巷、直なるは街、横町）に於いて之を殺さしめ，尋いで榜を懸けて千萬錢（懸賞金）を以て賊を募る。

●［**爾朱兆は敬宗を殺害**］甲子（60-38+1=２３日），**爾朱兆**は**敬宗**（年 24、廃帝は帝を諡して武懐皇帝と曰う。孝武帝立つに及び、廟諱を以て諡を改めて孝荘皇帝と曰い、廟を敬宗と号す）を晉陽の三級佛寺に縊（くび）り，並せて陳留王の**寬**を殺す。

【高歡は爾朱兆を見限る】

●［**步蕃は晉陽に逼り、高歡は爾朱兆を助けて斬る**］是の月，**紇豆陵步蕃**は大いに**爾朱兆**を秀容に破り，南に晉陽に逼る。**兆**は懼れ，人をして**高歡**を召し力を並せ使む。僚屬は皆な**歡**に

「召しに應じる勿かれ」

と勸め，**歡**は曰く、

「**兆**は方に急なり，它慮無きを保つ。」
遂に行く。**歡**が親しむ所の**賀拔焉過兒**は緩行し以て之を弊れしめんと請い，**歡**は往往にして逗留し，辭するに河（汾河）に橋無く，渡るを得ずを以てす。**步蕃**の兵は日々盛んなり，**兆**は屢々敗れ，急を**歡**に告げ，**歡**は乃ち往きて之に従う。**兆**は時に**步蕃**を避けて南に出で，**步蕃**は平樂郡（爾朱兆傳によると樂平郡に作るべし。後漢の獻帝は太原を分けて樂平郡を置く。沾城に治す。山西省冀寧道昔陽県、現・晋中市昔陽県、沾城・姑城もあり混乱しやすい）に至り，**歡**は**兆**と兵を進めて合い撃ち，大いに之を破り，**步蕃**を石鼓山（秀容郡秀容県、山西省雁門道忻県、現・忻州市忻府区）に斬り，其の衆は退き走る。**兆**は**歡**を德として，相い與に誓いて兄弟と為り，數十騎を將いて**歡**に詣り，通夜宴飲す。
●［高歡に叛乱対応策を聞く］初め，**葛榮**の部衆の並、肆に流入する者は二十餘萬，契胡（爾朱の種人）が陵暴するが為に，皆な生を聊（やす）んぜず，大小二十六反し，誅夷する者は半ばなり，猶ほ亂を謀るは止まず。**兆**は之を患い，**歡**に計を問い，**歡**は曰く、
「六鎮の反殘（破六韓拔陵・杜洛周が敗れ、その衆は葛榮に帰す、皆六鎮の人）は，盡く殺す可からず，宜しく王の腹心を選んで之を統べ使め、犯す者有れば其の帥を罪すれば，則ち罪する所の者は寡なし矣。」
兆は曰く、
「善し！誰か使う可き者なるや？」
賀拔允は時に坐に在り，**歡**をして之を領せ使めんを請う。歡は其の口を拳毆し，一齒を折る，曰く、
「平生は**天柱**の時，奴輩（高歡が自ら謂うなり、詭りて遜辭を為し、兆をして己を疑わざらしむなり）は處分に伏すること鷹犬の如きなり。今日天下の事は取捨は王に在り，而るに**阿鞠泥**（賀拔允の字）は敢て僭易（驕り侮る）して妄言す，請う之を殺さん！」
兆は**歡**を以て誠と為し，遂に其の衆を以て焉に委ねる。**歡**は**兆**が醉うを以て，醒め而して之を悔いるを恐れ，遂に出で，宣言す、
「委を受けて州鎮（魏は六鎮を州とし、葛榮の部衆は皆六鎮の人）の兵を統べる，汾東に集りて號令を受ける可し。」
乃ち牙を陽曲川（汾水は汾陽県より南流して陽曲の城西を経る。陽曲は秀容の南にあり、山西省冀寧道陽曲県、現・太原市陽曲県・晋源区）に建て，部分を陳す。軍士は素より**兆**を惡み而して**歡**に屬すを樂しみ，（9-108p）皆な至らざるは莫し。
●［高歡は山東に食を求め、爾朱兆と駆け引き］（高歡は）居ること何（いくば）くも無くして，又た**劉貴**をして**兆**に請いて，以わ使む、
「並、肆（爾朱兆の境内）は頻りに歲に、霜旱あり，降戸は田鼠を掘り而して之を食し，面（顔）に穀色無く，徒らに人の境内を污す，請う食に山東に就か令め，溫飽（衣食無缺、衣食足りる）を待ち更に處分を受けん。」
兆は其の議に従う。長史の**慕容紹宗**は諫めて曰く、
「可からず。方に今四方は紛擾し，人は異望を懷く，**高公**の雄才は世を蓋（おお）う，復た大兵を外に握ら使めれば，譬えば蛟龍に借すに雲雨を以てするが如し，將に制す可からざらん矣。」
兆は曰く、
「香火の重誓有り，何の慮りある邪！」
紹宗は曰く、
「親しき兄弟も尚ほ信じる可からず，何の香火を論じるや！」
時に**兆**の左右は已に**歡**の金を受け，因りて**紹宗**を稱して**歡**と舊隙有りとす。**兆**は怒り，**紹宗**を囚え，**歡**が發するを趣（うなが）す。**歡**は晉陽より滏口に出でて，道に**北鄉長公主**の洛陽より來たるに逢い，馬三百匹有り，

盡く奪い而して之を易(か)う。**兆**は之を聞き，乃ち**紹宗**を釋し而して之を問い，**紹宗**は曰く、
「此れ猶ほ是れ掌握中の物也。」
兆は乃ち自ら**歡**を追い，襄垣に至り，會々漳水は暴漲し，橋は壞れ，**歡**は水を隔てて拜して曰く、
「**公主**の馬を借りる所以は，它の故有るに非ず，山東の盜に備える耳。**王**（兆を称して王というは長廣王の封じる所による）は**公主**之讒を信じ，自ら來たりて追うことを賜る，今水を渡り而して死すも辭さず，恐らくは此の衆は便ち叛かん。」
兆は自ら此の意無きを陳じ，因りて輕馬にして水を渡り，（胡三省曰く、古の豪雄は赤心を推して人の腹中に置く者は、必ず其の威望は以て其の心を服する有り、知力以て其の命を制する有り、然る後にこれを行い、以て反側を安んず。然れども爾朱榮の輕率なるが如きに至らざるなりと）**歡**と幕下に坐して陳謝し（続は欠如），**歡**に刀を授け，頸を引いて**歡**をして之を斫ら使む。**歡**は大いに哭して曰く、
「**天柱**之薨じしより，**賀六渾**は更に何の仰ぐ所ぞ！但だ願わくは大家（高歡は主を以て兆に事え、故に称して大家と為す。この言もまた謬りて恭敬を為す）千萬歲にして，以て力用を申べん耳。今旁人の構間する所と為る，大家は何ぞ忍びて復た此の言を出すや！」
兆は刀を地に投じ，復た白馬を斬り，**歡**と誓いを為し，因りて留りて宿して夜飲す。**尉景**は壯士を伏せて**兆**を執らんと欲し，**歡**は臂を噛んで之を止め，曰く、
「今之を殺せば，其の黨は必ず奔り歸りて聚結す。兵は饑え馬は瘦せ，與に敵す可からず。若し英雄之に乘じ而して起てば，則ち害を為すこと滋々甚だし。且く之を置くに如かず，**兆**は驍勇なりと雖も，凶悍無謀にして，圖るに足らざる也（騙しやすい）。」
旦日，**兆**は歸營し，復た**歡**を召し，**歡**は將に馬に上りて之に詣らんとし，(9-109p) **孫騰**は**歡**の衣を牽き，**歡**は乃ち止まる。**兆**は水を隔てて肆に罵り（この時兆は高歡を制し難きと知るも、いかんともし難きなり），馳せて晉陽に還る。**兆**の腹心の**念賢**は降戶の家屬を領し別に營を為し，**歡**は偽りて之と善し，其の佩刀を觀，因りて取り之を殺す。士州は感悅し，益々願いて附き從う。（胡三省曰く、按ずるに通鑑に、念賢は後に西魏に仕え貴顯なり、此れ豈に別に一の念賢有るか。又按ずるに李百藥の北齊書に、歡は賢の佩刀を取り、以て其の從者を殺す、從者盡く散ず、則ち謂うに殺す所の者は賢の從者にして、賢を殺ししに非ざるならんと）
●■［齊州刺史蕭贊の追放］齊州城民の**趙洛周**は**爾朱兆**の入洛するを聞き，刺史の丹楊王の**蕭贊**（豫章王綜が魏に奔り改名したのは 150 巻普通六年にあり）を逐い，城を以て**兆**に歸す。**贊**は形を變えて沙門と為り，逃げて長白山（山東省濟南道章丘県、現・済南市章丘区）に入り，流轉して，陽平（山東省東臨道莘県、現・聊城市莘県）に卒す。梁人の或は其の柩を盜んで以て歸り，**上**は猶ほ子の禮（贊は父となさずともの意味）を以て陵次に葬る。
●［荊州刺史の李琰之の追放］魏の荊州刺史の**李琰之**は，**韶**之族弟也。南陽太守の**趙修延**は，**琰之**が**敬宗**の外族なるを以て，**琰之**を誣いて梁に奔らせんと欲し，兵を發して州城を襲い，**琰之**を執り，自ら州事を行う。
●■［魏王悅はあきらめて南に帰還］魏王の**悅**は改元して更興とし，**爾朱兆**の已に入洛するを聞き，自ら事及ばざるを知り，遂に南に還る。**斛斯椿**も復た**悅**を棄てて魏に奔る。
■●是の歲，詔して**陳慶之**を以て都督南、北司（梁は南司州を安陸に、北司州を義陽に置く）等四州諸軍事、南、北司二州刺史と為す。慶之は兵を引いて魏の懸瓠を圍み，魏の潁州（魏の孝昌四年に汝陰に置く）刺史の**婁起**等を溱水（河南省汝陽道桐柏県桐柏山より発して確山県の界に入り、東北流して汝南県に至り、東南して汝水に入る）に破り，又た行台の**孫騰**等を楚城（梁は西蘇州を置く治所、汝南郡城陽県の界にあり、河南省汝陽道信陽県、現・信陽市周辺か）に破る。義陽の鎮兵を罷め，水陸の漕運は停り，江、湖の諸州（瀕江及び洞庭など）は並せて休息を得たり。田六十頃を開

き，二年之後，倉廩は充實す。

令和 4 年 12 月 31 日　　翻訳開始　　9619 文字
令和 5 年 1 月 2 日　　翻訳終了　　20872 文字